令和５年　９月　１日

令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年　国語　１１５人　　社会　１１５人　　数学　１１５人
理科　１１５人　　英語　１１５人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

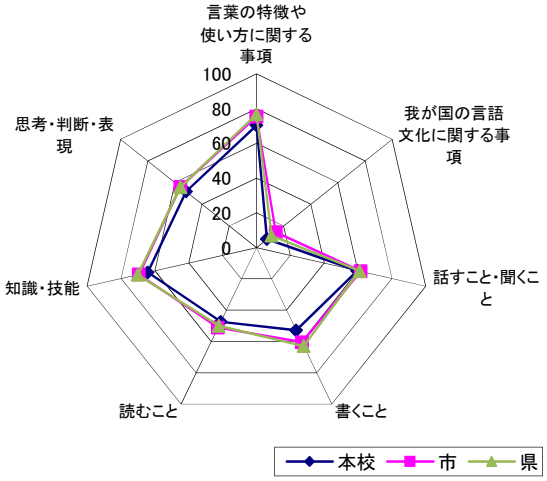
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.4	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	7.8	14.3	11.2
	話すこと･聞くこと	59.6	61.6	60.9
	書くこと	52.8	60.4	62.9
	読むこと	47.3	51.0	49.9
観点	知識･技能	64.2	69.4	70.1
	思考･判断･表現	51.7	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

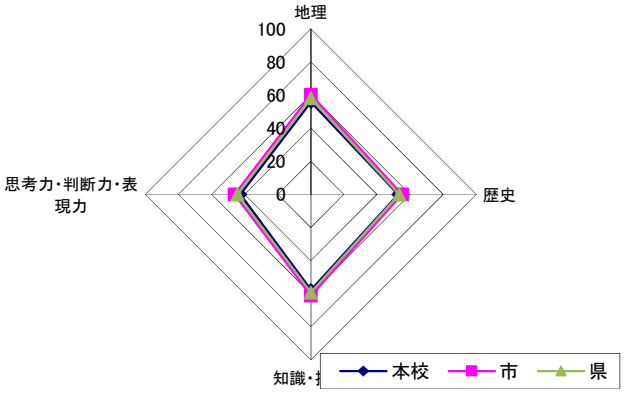
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本校の平均正答率70．4%は、本校市より5．1ポイント低く、県より6．3ポイント低かった。 ○漢字の読みは、概ね市や県の平均に迫る正答率であった。 ●漢字の書きが、全体的に低い。また、「文節どうしの関係」や「故事成語（蛇足）」の問題も低かった。無回答率は市や県に比べ、高い傾向である。	･新出漢字においては、部首･読み･書き･頻出の熟語･使用例をセットで定着させていきたい。また、既習漢字も繰り返し文章中で使用することを促すことで、知識の定着を図りたい。
我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率7．8%は、市より6．5ポイント低く、県より3．4ポイント低かった。 ●「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く」問題の正答率は、本校7．8%、市14．4%、県11．2%と全体的にかなり低い傾向であった。中1で習った内容が定着していないことが推測される。	･古典への苦手意識をなくすために、今後扱う古典作品について映像資料や学習漫画なども取り入れた授業展開を実践していきたい。 ･歴史的仮名遣いについては、古文の音読を推奨することで、耳で聞いて音を覚え、目で追う文字との違いをより意識させたい。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率59．6%は、市より2ポイント低く、県より1．3ポイント低かった。 ○「1－1話し手の話し方」「1－3司会者の話合いの進め方」についての問題では、市や県の平均に迫る正答率であった。 ●「1－2話し手が話した内容を説明した文を選ぶ」問題では、市や県の平均から5ポイントほど低かった。	･聞き取りのテストを定期的に実施していきたい。 ･「話すこと」については、伝える場面や目的、相手に応じて適切な言葉遣いを意識させたい。また、内容も構成を工夫して伝えることができるよう相手意識をもたせて指導する機会を増やしていく。国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間や学級活動などと関連させていきたい。
書くこと	本校の平均正答率52．8%は、市より7．6ポイント低く、県より10．1ポイントも低かった。内容は、「観光客を呼ぶためのポスターAとBの片方を選んで、意見文を書く」問題である。 ･正答率を考慮すれば、無回答率はそれほど低くない。 ●第1段落（AとBの特徴をそれぞれ書くこと）に関する部分が、県より17ポイント低い。	･作文の「型」が身についていない生徒が多くみられる結果となった。無回答率は、それほど低くないので、意欲的なところは励まして、書くことを応援したい。また、正しい理解につなげるために、「型」や手本となる文章を見せ、定期的に短い文章を書かせる指導を繰り返すことで作文する力を定着させたい。
読むこと	本校の平均正答率47．3%は、市より3．7ポイント低く、県より2．6ポイント低かった。 ○「4－4説明文の要旨に関する問題」「5－4小説の表現に関する問題」は、市や県よりも高いかもしくは同等であった。 ●「4－2説明文の重要語句の抜き出し」「小説の登場人物の意図」に関する問題では、市や県の平均から10ポイントほど低かった。	･記号問題は、意欲的に解くことができる。しかし、文章中から適切な語句を抜き出したり、それらを再構成して適切にまとめたりするという問題では、正答率がかなり低いことが分かる。普段の読み取りやワーク類の演習においても、ただ漫然と文章を目で追い、答えを覚えるのではなく、「なぜそういう答えなのか」「どのような手順で答えを論理的に導くのか」ということを明確に意識させてスキルを高めていきたい。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.8	60.1	58.1
	歴史	52.9	55.1	53.5
観点	知識・技能	57.8	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	42.6	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

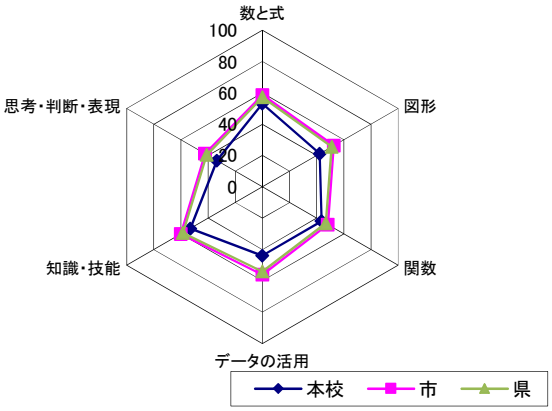
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分		本年度の状況	今後の指導の重点
学習指導要領の領域等	地理	平均正答率は市・県の平均より低いが、誤った問題数で比較すると約1問の差である。 ○日本の都道府県の特徴に関する問題の正答率は80%を超えており、市・県の正答率を上回っている。 ◯インドに関する資料問題の正答率は、市・県の平均を下回っているが、市・県と同じく70%台である。 ◯オーストラリアに関する資料問題の正答率は、市の平均を下回っているが、県は上回っている。 ●排他的経済水域の範囲や権限に関する問題の正答率は48.7%で、市・県の平均を10%以上下回っている。 ●カタールの人口構成に関する複数の資料を利用した記述式問題の正答率は、市平均25.3%、県平均23.4%とかなり低いが、本校も24.4%かなり低い。 ●アフリカ州に関する複数の資料を利用した記述式問題の正答率は、市平均18.8%、県平均20.1%とかなり低いが、本校はそれを下回る18.3%となっている。	・本校生徒の基礎学力のレベルを更に高めるために、日常の授業において、生徒の興味・関心を引き出す工夫を取り入れるとともに、わかりやすい授業の実践に努める。また、単元の終わりに小テストを実施して、定着度を確かめる。（知識・技能） ・分布図やデータを利用し、生徒が分布図やグラフを作成する学習を取り入れ、地域の特色を視覚的に理解させる。 ・課題解決学習を取り入れ、地図・グラフ・表・写真など複数の資料を利用し、個人やグループで考えをまとめ、発表させる。（思考・判断・表現）
	歴史	平均正答率は市・県の平均より低いが、誤った問題数で比較すると約1問の差である。 ○古代文明の特色、古代ギリシャの政治、律令国家の人々の負担、平等院鳳凰堂、鎌倉時代の軍記物に関する問題の正答率は、市・県の平均を上回っている。 ◯インドに関する資料問題の正答率は、市・県の平均を下回っているが、市・県と同じく70%台である。 ◯オーストラリアに関する資料問題の正答率は、市の平均を下回っているが、県は上回っている。 ●鎌倉時代の政治に関する問題の正答率は、市・県ともに平均30%を超えたが、本校は24.4%とかなり低い。 ●シルクロードの東西交易に関する複数の資料を利用した記述式問題の正答率は、市・県ともに平均30%を超えたが、本校は28.7%とかなり低い。 ●鎌倉時代の元寇の影響に関する資料を利用した記述式問題の正答率は、市平均26.7%、県平均25.0%とかなり低いが、本校はそれを下回る22.6%となっている。	・本校生徒の基礎学力のレベルを更に高めるために、日常の授業において、生徒の興味・関心を引き出す工夫を取り入れるとともに、わかりやすい授業の実践に努める。また、単元の終わりに小テストを実施して、定着度を確かめる。 ・年表や表を利用した学習を取り入れ、政治・社会・文化の時代ごとの特色を理解させ、歴史の流れを把握させる。 ・課題解決学習を取り入れ、史料（文章・絵）・地図・写真など複数の資料を利用し、個人やグループで考えをまとめ、発表させる。（思考・判断・表現）
評価の観点	知識・技能	平均正答率は、市・県の平均よりも低いが、誤った問題数で比較すると約1問の差である。 ○選択式の問題の正答率の平均は60%を超えており、歴史については平均65.1%となっている。 ●短答式・記述式の問題の正答率平均は42.6%となっている。	学習を通して得た知識や技能を用いて、口頭や文章で説明する機会を授業に取り入れる。
	思考力・判断力・表現力	平均正答率は、市・県の平均よりも低いが、誤った問題数で比較するとほとんど変わらない。 ○選択式の問題の正答率平均は70%を超えている。 ●記述式の問題の8割が、正答率30%を下回っている。	多面的多角的に物事を考える力、よりよい判断を行える力、自分の意見を表現する力をつけるために、課題解決学習などを通して自分の考えを文章にまとめ、また対話的な学習活動を行うことで自分の考えを深められる授業を展開する。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.1	58.6	57.2
	図形	42.2	52.6	51.1
	関数	43.6	48.2	46.8
	データの活用	43.9	56.1	54.1
観点	知識・技能	53.1	60.2	58.6
	思考・判断・表現	33.5	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

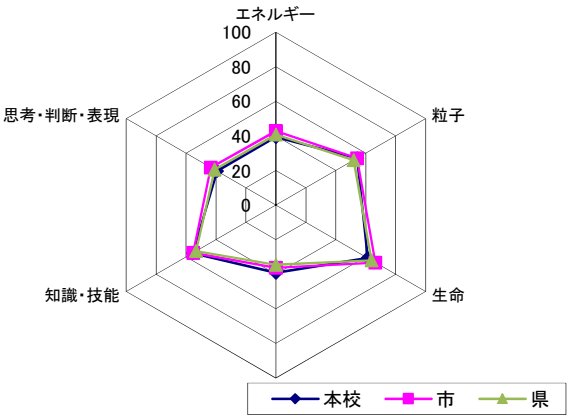
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市・県の平均よりも低い。 ○数の四則演算の問題の正答率は県の正答率とほぼ同じである。 ●文字式・1次方程式の問題の正答率は県の正答率よりも低い。	・文字式・1次方程式の問題については複雑な計算や利用の問題の正答率が低い、その理由として計算や解法の手順が曖昧になっている部分が多いと考えられる。対策として授業中に既習事項の確認と問題演習を多く取り入れることで定着を促したい。
図形	平均正答率は、市・県の平均よりも低い。 ○おうぎ形の面積・球の表面積を求める問題の正答率は県の正答率とほぼ同じである。 ●底面積の等しい円錐と円柱の関係についての問題は県の正答率よりも低い。	・各図形の面積や体積の公式は覚えることができているので、そこから求まる数量から、図形同士の関係を考える問題を通して、図形問題の理解を深める指導をしていく。
関数	平均正答率は、市・県の平均に近い。 ○比例の問題については県の正答率とほぼ同じであり、無解答率もほぼ同じであった。比例の関係でのx、yの値の変化の関係について理解している。 ●反比例の関係の表をもとにxの値からyの値を求める問題については県の正答率よりも低い。	・反比例の正答率が低いため、比例と反比例の違いを理解したうえで、式からグラフを求めることや、グラフから式を求めることなど、基礎基本の復習に取り組ませる。また、利用の問題に対応するために、文章から情報を読み取る練習をしていく。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均よりも低い。 ○2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いる理由を理解しているか確認する問題の正答率は県の正答率とほぼ同じである。 ●相対度数の問題や2つの折れ線から読み取った傾向から説明をする問題は市の平均から大きく下回っている。	・資料から様々な情報を読み取るため、単元内で登場する用語の意味をおさえ、何を求めたいのかを明確にして解けるように指導をしていく。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	39.4	42.8	40.8
	粒子	54.2	54.2	52.0
	生命	61.3	66.4	63.8
	地球	39.1	36.2	34.5
観点	知識・技能	55.5	55.2	53.3
	思考・判断・表現	39.3	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

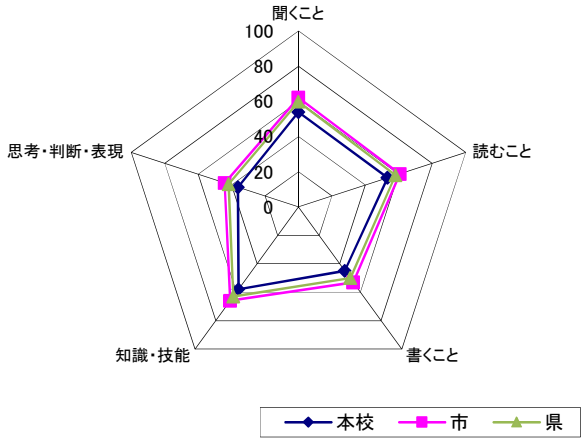
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	本校の平均正答率は、市と県の平均正答率を下回っている。 ○ばねに加えた力を求めることができるかどうかをみる問いに対する正答率は、低いながらも市や県の正答率を少し上回った。 ●虚像と虚像が見えたときの光の道すじを正しく表すことができるかどうかをみる問いに対する正答率が20%未満と特に低かった。	・目に見えている現象を作図したり、モデル化したりする学習活動を多く取り入れ、学習内容の理解度を深めるように努める。 ・作図については、パソコンによるシミュレーションのみに頼ることなく、ペンと定規を使って、各自が直接的に作図をする学習を数多く行う。
粒子	本校の平均正答率は、市と同じで、県の平均正答率を上回っている。 ○塩化ナトリウムの水への溶解を粒子のモデルと関連付けて理解できているかをみる問いに対する正答率は市や県の正答率を上回った。 ●硝酸カリウム水溶液の温度を下げることで取り出せる結晶を定量的に理解していることを説明できるかどうかをみる問いに対する正答率が市や県の正答率を下回った。	・目に見えている現象をモデル化して、計算により定量化するような学習活動をより丁寧に行うことで、学習内容の理解度を深めるように努める。 ・本校の生徒は、「百分率（%）」に関する理解があまり深まっていないため、○○gあたり□□g？のような問題に柔軟に対応できない場合が多いので、普段から易しい問題を通して、割合を求めていくような学習活動を取り入れるようにする。
生命	本校の平均正答率は、市と県の平均正答率を下回っている。 ○脊椎動物の子の生まれ方を理解しているかどうかをみる問いに対する正答率は市や県の正答率を上回った。 ●正しいスケッチのしかたが身についているかどうかをみる問いに対する正答率が市や県の正答率を下回った。	・実験や観察のレポートを作成する際に、積極的にスケッチを使用するように指導し、その都度、正しいスケッチのしかたを確認していくようにする。 ・よい例を提示するのではなく、適切ではない例も提示することにより、どの部分がどのように不適切なのかを具体的に示しながらスケッチの方法を指導する。
地球	本校の平均正答率は、市と県の平均正答率を上回っている。 ○火山の形とマグマのねばりけの関係を理解しているかどうかをみる問いに対する正答率は市や県の正答率を上回った。 ●鉱物と火成岩について理解しているかどうかをみる問いに対する正答率が市や県の正答率を下回った。	・普段の生活の中で直接的に経験するものではない内容を学習する際は、なるべく実物に触れさせ、直接的に観察できるような学習の形態を取り入れていく。 ・目で観察した結果を理論にうまく関連付けらない生徒が少なくないので、特に、目に見えた結果の違いが起きる理由を丁寧に考えさせるような指導をしていく。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	53.9	62.0	59.7
	読むこと	53.3	60.6	58.0
	書くこと	45.0	53.1	50.1
観点	知識・技能	57.9	66.0	63.0
	思考・判断・表現	36.2	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市・県の平均よりも低い。 ○対話、英文の概要や要点を聞き取る問題ではおおむね県の正答率に達している。絵や問題文の選択肢などの情報を手掛かりに、目的や状況を理解しようする態度が養われていると考えられる。 ●英文を聞き取り、たずねられたことに対して、自分の考えを簡潔に答える問題については、課題が見られる。無回答率が高いことから、英文を書くことに苦手意識を感じている生徒が多いことがわかる。	・授業での目的・場面・状況を適切に設定し、話し手が何を伝えたいのかを考えながら聞き取らせる活動をさらに充実化させ、聞く力を高める。 ・身近な話題をトピックに、様々な英文の概要や要点を聞き取った内容に対して自分の意見を英語で表現したりする場面を多く設定していく。 ・既習事項を活用し、短い英文を書く活動からスタートして、英語を書くことに対する苦手意識の改善を図る。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均よりも低い。 ○対話から必要な情報を読み取り、適切な表を選んだり、英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選んだりする問題ではおおむね県の正答率に達している。英文を読み、大まかな内容を理解しようとする態度が育成されてきていると考えられる。 ●英文を読み、適切な表を選ぶ問題は正答率が低いものもあった。英文の内容によっては、理解が難しいと感じている生徒が多いことがわかる。	・文法・語彙の知識の定着を図り、活用できる力を身につけさせるため、英文を読み、その内容をもとに書くという活動を授業の中で取り入れていく。 ・読む英文の内容によって、正答率が異なることから、様々な種類の英文（対話文・説明文など）を読む活動を取り入れ、英文に慣れさせる。合わせて、読み取った内容をもとに、自分の考えを表現する活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均よりも低い。 ○英文から適した英単語を選んだり、過去形の否定文を正しい語順で書く問題では、どちらも市・県の平均を上回る正答率だった。語順を意識させたり、単語の意味を丁寧に確認させる指導の成果だと考えられる。 ●１文・2文目とつながりのある英文を書く問題では、正答率が低く、合わせて無回答率も市・県の平均を上回っているなど、課題が見られる。	・基礎・基本的な文法や語彙の知識をさらに定着させるために、授業で新出の文法表現や単語を使った活動を充実化させていく。 ・三人称単数現在時制の一般動詞の肯定文の設問の正答率から、理解が不十分であることがわかるので、ワークシートなどを活用したフォローアップを行う。 ・既習事項を復習しながら、身近な話題で短い英文を書く活動からスタートして、英語を書くことに対する苦手意識の改善を図る。

宇都宮市立国本中学校 第２学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学校の宿題は、やりたくなる内容か、という問いに対して、肯定的に回答している割合が、市の平均に比べて5%ほど上回っている。今後は、宿題の内容をより精査し、生徒がさらに積極的に家庭学習に取り組めるように指導していきたい。
○学習して身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思うか、という問いに対して、肯定的に回答している割合が、市や県の平均を上回っている。今後は、キャリア教育と関連付けることも含めて、学習している内容が社会環境や自然環境の中で起こっている現象とどのように関わっているかについて学習する機会をより増やしていきたい。
○先生は学習のことについてほめてくれるか、という問いに対して、肯定的に回答している割合が、市や県の平均を上回っている。今後は、「ほめて伸ばす」という意識をより高く持ち、生徒の小さな成功を見逃さずに、ほめて励ますことを中心とした学習指導を心がけていきたい。
●家で自分で計画を立てて勉強しているか、という問いに対して、肯定的に回答している割合が、市や県の平均に比べて5%ほど下回っている。今後は、見通しをたてて計画を作成し、それを実行していくように指導していきたい。
●家で学校の授業の予習をしているか、という問いに対して、肯定的に回答している割合が、市や県の平均に比べて10%ほど下回っている。今後は、復習のみではなく、予習の内容を宿題に出すなどして、授業での学習内容を先に見通せるように指導していきたい。
●本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ているか、という問いに対して、肯定的に回答している割合が、市や県の平均に比べて10%ほど下回っている。今後は、一人一台端末のより積極的な利用を促すなどして、効率的に必要な情報を得ていくように指導していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す。	・学力向上プログラムを行うことで、基礎・基本の確実な定着を目指し、家庭学習の充実を図る。 ・各種学力調査結果の分析をもとに、宇都宮モデルに基づく授業改善の推進を行う。	・家で計画的に学習に取り組むという点でまだ課題が残っているが、宿題の内容の改善が図られ、生徒が意欲的に宿題に取り組むようになった。 ・学校で学習する内容が将来の仕事や生活の中で役に立つと思うという成果が表れてきた。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・家で計画的に学習に取り組むという課題に関わることで、予習に取り組む意識が低い。 ・インターネットを利用して勉強に関する情報を得ている生徒が多くはない。	基礎・基本の確実な定着を目指し、見通しを持った計画性のある家庭学習の充実を図る。	・宿題の内容を、復習の内容に偏ることがないように、時には予習の内容を含めて考え、生徒に課題を出すようにしていく。 ・一人一台端末（クロムブック）のより効果的な活用方法を考え、宿題の内容と結び付けていくようにする。